

(様式2) 平成27年度〔自己評価報告書〕

学校名  
上丸子小学校

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
「3つの心を育もう」 学びの心 (考える楽しさがわかる、主体的に学び合う) たくましい心 (ねばり強く取り組める、心身のバランスの良い成長) やさしい心 (他者理解ができる、成長にふさわしい感性をもつ)	○子ども一人一人を理解し、それぞれが生き生きと活動できる学校づくり ○教職員相互の信頼関係に基づき、創意と活力にあふれた学校づくり ○学校・家庭・地域の三者が一体となったより良い教育の実現	◎安全で楽しい学校づくり ○教育相談体制の機能を向上し、人権尊重教育の推進と保護者との連携を深める。 ○コミュニティ・スクールの運営と学校評価システムとを連携させ、学校運営のあり方を推進していく。 ○学習指導要領の内容をふまえ、道徳を中心とした、学ぶ力・確かな学力を育てるための学習指導の推進。 ○個々の子どもたちの実態に合った効果的な特別支援体制・指導のあり方の研究。 ○新しい校舎における子どもたちの環境に配慮し、落ち着いた学習活動・学校生活が送れるようにする。

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 「学習指導」 ・『自分を見つめ、共に学び合い未来をきり拓く子』を育む学習指導の推進。 ・基礎的・基本的な技能・知識の習得・活用 ・学習環境の整備	①児童の疑問や意欲を引き出し、子ども自ら課題・問題を見つける授業を継続していく。 ②学習活動でどのような表現を大切にしたいか、意図を明確にもった授業を継続していく。 ③教科部会や校内研専門部会を計画・実施して、学習環境を整えるとともに、各学年の学習資料を整理・記録していく。	①学年の発達段階に応じた、問題設定(課題設定)に取り組んでいる。単元全体を見通しながら、計画的に取り組むように留意した。 ②話す・聞く力の伸長については、今後、共通理解が必要である。 ③共有フォルダを効果的に活用し、教材、資料などの引き継ぎを行い、効果的に学習活動をすすめるように工夫した。データに残らないもの(大型の紙資料など)の保存をすすめていきたい。	①学習のねらいと共に、子どもの実態や興味・関心を一層大切に考える学習を今後計画していく。 ②話す・聞く力の伸長について、次年度の学習指導ワーキングの取り組みや校内研究の手立ての一つとして考えていく。 ③道徳、国語などの黒板掲示用の資料の保存のために印刷室のアレンジャーなどを使っていく。
2 「教育課程」 ・教科の指導計画及び評価規準の見直し	①平成27年度を振り返り、平成28年度の単元配列表とカリキュラムを作成する。 ②各学年の学校外との絡みのある学習について一覧表を作成する。 ③「1年間の評価の流れ」の作成・提案や評価研修会の計画・実施を通して、全学年に共通した学習評価を目指す。 ④学習状況調査の結果について分析し、本校の児童の学習状況をとらえ、指導に活かす。	①カリキュラムについて、記入用紙を使い、変更点を引き継いでいる。次年度の学習計画に活かしていく予定である。 ②外部講師一覧表を有効活用し、学習をすすめることができた。近年、外部機関の予約が埋まるケースも出てきたので、早めの予約などの取り組みが必要である。 ③評価研修会を行い、指導と評価の一体化を進めることができた。 ④学習状況調査の結果を意識しながら取り組むことができた。本離れの現状も見られたが、今年度は図書貸出し数が伸びている。	①平成29年度には、もう一度、単元配列を作成する。 ②次年度4月には1年間を見通した外部講師、外部機関との連携の計画をすすめる。 ③次年度の評価研修会は学習指導ワーキングメンバー中心で行い、全職員で協力して行う。その際、仕事に偏りがないようにしたり、教科主任を交えるなど構成メンバーに工夫を行う。 ④一層の図書室の有効活用を計画する。また、校庭が完成するので体力面の伸長も期待したい。
3 「総合的な学習の時間」 ・指導計画の見直し	①多摩川学習を計画し、より充実した学習になるようにすすめていく。 ②キャリア在り方生き方教育を進めていく中で、総合的な学習の指導計画を見直す。	①毎年、多くの講師の方々に協力していただいていたとても感謝している。しかし、一方で講師の方々の世代交代の時期も近づいているように感じる。 ②6年生で今年度、新たにキャリア教育につながる単元を取り入れた。キャリア教育の単元を取り入れたことで、これまで設定していた単元に一本柱が通り、子どもたちの学習に取り組みやすくなった。	①これまでの講師の方々、宙と緑の科学館、理科研究会などと連携して講師の方々について再調整を考えていきたい。

4	<p>「生活指導」 ・校舎改築に伴う児童の学校生活の変化への対応 ・人権尊重教育充実 ・いじめ・不登校のない学校づくり</p>	<p>①新校舎で安全に落ち着いて生活できるように子どもたちの生活を見守り、「上丸子の生活」を見直していく。 ②子どもたちが安全に落ち着いて生活するために、朝自習、休み時間の体育館・屋上テラス等の使用割り当てを計画する。また、室内での安全な遊びの周知、徹底を呼びかける。 ③「キラキラウィーク」における人権尊重教育の取り組みの充実、授業の提案・見直しをする。 ④かわさき共生共育プログラムに年6回取り組み、自分の生き方や友達との関わりについて考える学習活動を推進する。 ⑤「学校生活をよりよくするためのアンケート」(6・11・2月実施)とともに効果測定を行い、一人一人の子どもたちを理解し、よりよい人間関係づくりを目指すとともに、いじめ防止に努め早期の対応を心掛ける。</p>	<p>①新校舎の安全な使い方を見守りながら進めてきた。本年度始めた上履きの貸し出しは担任によって行った。サイズにより貸し出しの多いサイズがある。ノートにサイズも記載して様子を見ていく。わすれものを取りに来る児童は徐々に減ってきている。階段スペースが広く、近いラインをたどってしまうことがある。廊下も長いので落ち着いて歩くように声をかけている。 ②テラス体育館の割り当てを行い、順番に遊べる場を提供してきた。安全を確認して担任の見守る中、遊ぶようにしている。 ③④キラキラウィークに共生共育や人権教育など計画的に実施した。 ⑤いじめアンケートを3回行い、児童の実態をつかむように努めた。共生共育プログラムを年間6回実施し、2回の効果測定を行った。長期休み前に実施したことで休み明けの学級集団作りに活かすことができた。</p>	<p>①新校舎の使い方を見守りつつ、校庭の使い方について安全安心を意識しながら見直しをもちすすめていく。 上履きのサイズ補充をする。廊下歩行については全体で継続的に取り組んでいく。欠席連絡は連絡帳で行えるように年度初めに伝えていく。持ち物 みんなが持っていないものを持ってくるときには担任に相談するようなスタンスが大事。 ③人権配付資料は学年に応じてふれた上で配付する。 ⑤来年度も計画的にすすめる。</p>
5	<p>「特別支援教育」 ・一人一人の教育的ニーズに応じた教育の推進</p>	<p>①「どの子にとっても安心して生活でき、わかりやすい授業」をめざし、支援の手立てを教職員で研修していく。 ②教育相談の窓口を複数(担任・教務・養護教諭・コーディネーター・児童指導担当者など)設け、様々なニーズに対応できるようにする。 ③教育相談(三者面談・個人面談等)は、担任以外にも教育相談担当職員が同席して行うこともできるように計画する。</p>	<p>①夏の研修をはじめ、効果的な研修を行うことができた。 ②複数相談窓口があることで相談がしやすい環境ができていた。相談した後の共通理解、具体的手立て等共有できる場がほしい。 ③専門家のアドバイスを受けることができた。</p>	<p>①来年度も必要に応じた研修ができるよう計画していく。 ②相談の後、関係職員で校内委員会をすぐに開くようにする。わずかな時間でもこの後の方向性について共に考えていく。その内容についてはワーキングで報告するようにする。 ③来年度も可能ならば続けていきたい。</p>
6	<p>「児童の主体的活動」 ・児童会活動の充実 ・クラブ活動の充実 ・学級活動の充実 ・キャリア在り方生き方教育の推進</p>	<p>①代表委員会・委員会活動の5つの柱(笑顔・環境・挨拶・清掃・自然)を意識して自主的に活動できるように児童を育てる。 ②児童の「やってみたい」「あったらいいな」の思いからクラブを立ち上げ、自主的活動を目指す。よりよいクラブづくりに参画しようとする自主的実践的態度を育てる。 ③充実した活動ができるように、学級活動のカリキュラムと内容を見直す。 ④これまでの教育活動全体を振り返りながら、キャリア在り方生き方教育につながる活動を精選し、指導計画を作成する。</p>	<p>①代表委員会・委員会活動の5つの柱(笑顔・環境・挨拶・清掃・自然)を年間を通して意識することが難しい。また、委員会活動でのお知らせを、給食時間に児童が回っているが、低学年は、食べることに集中しているので、話を聞くことが難しい。あいさつ運動など、素晴らしい取り組みをしているが、ふだんのあいさつに個人差があるように感じる。 ②新設クラブも成立して活動の幅が広がってよかった。今年度は、校庭が使えなかったため、多摩川の河川敷も使用させていただき、大変よかった。しかし、児童の希望と場所のかねあい・工夫の仕方が複雑で、担当者が苦慮しているところである。 ③学級会のマニュアルがあるとよい。 ④キャリア在り方生き方教育では、各学年でカリキュラムを作成した。</p>	<p>①昇降口に委員会のお知らせ掲示板(2か所)を用意していただければ5つの柱をやさしい言葉になおして掲示したり、教室に掲示したりして、啓発を図っていきたい。昇降口にお知らせ掲示板ができれば、委員会活動のお知らせも掲示できるので、給食時間に児童が回る回数が増えるのではないだろうか。朝の時間に児童が回るとよいのではないかという意見もあったが、各クラスの朝の会に支障があるので、やはり、給食時間がよいという意見があった。あいさつについては、ふだんから6年生が進んであいさつをしているので、6年生を朝会等でほめ、他学年に普及していくようにしていきたい。 ②次年度は、体育館が使用できない時期があるので、引き続き多摩川河川敷を使用させていただき運動系のクラブも充実させていく。児童にとってよりよい方向でクラブ活動を考えていく。 ③キャリア在り方生き方教育の副読本の中に学級会の進め方が記載されているので、各学年で活用していく。 ④来年度から、意識して活用していく。</p>
7	<p>「家庭・地域社会がもつ教育力活用」 ・コミュニティ・スクール充実</p>	<p>①地域住民、保護者が学校運営に参画・協働することで、保護者・地域の力を活かし、子どもたちのより豊かな育ちについて関心をもち、具体的な活動を進めていく。 ②学校運営協議会のST(サポートチーム)の重点事業の推進を図る。</p>	<p>①②昨年度のST活動をすべて継続して行ってきた。新校舎が完成したが校庭はないため、キラキラバザーは制限された活動になったが、成功裏に進められた。動線等の課題がある。クリーン&amp;グリーンは、広範囲の花壇ができ、植え替えを行った。地域のSTメンバーの方も参加している。学習支援STの活動として、後期から地域の寺子屋事業が始まった。学習支援STに関しては、家庭科の実習、体育の水泳など実技科目での支援ティーチャーの協力は効果的だった。また、算数などでは経験の長い方も多く、安心して学習に取り組む様子が見られた。ブックママさんに関しては、人数も増え、子どもたちにより本の楽しさを教えていただいた。教師の担当者で微調整が必要。ベルマークSTの活動の中で、新校舎に必要なコードレス掃除機を各学年にわたるよう購入した。有効に利用している。学校教育説明会など学校運営協議会の活動を紹介する機会を増やし、保護者の認知度が上がった。</p>	<p>①②校庭ができ、キラキラバザーの規模も変わってくる。学校運営協議会委員の皆様とともに、時期・設備利用法・活動を熟考していく。校舎落成・70周年記念式典に向けて、その環境部の事業と関連して、クリーン&amp;グリーンの活動は考えていく。寺子屋事業と学校運営協議会との連携をより強めていく。学習支援ティーチャーの教師側の担当者については、4月の教科部会でSTの担当者を可能な限り、調整していく。学校運営協議会の活動をこれからも機会があるごとに紹介していく。</p>

8	「運営組織・学校評価」 ・教育計画、学校評価 ・運営組織の連携	①学年目標・学級目標を明確に設定し、教育活動を行う。 ②学校評価の進め方について検証し、保護者や児童・地域の方の声を学校運営に反映していくとともに、より開かれた学校づくりの推進を図る。 ③ワーキング制を取り入れ、教職員一人一人がより主体的に関わり目標達成に向けて取り組む。	①各学年が子どもたちとともに目標を設定し、活動してきた。しかし、保護者にその目標を共有してもらい、子どもたちの成長のため一緒に見守っていけるよう投げかける必要があると考えられる。 ②保護者が学校評価をしやすいように、7月に評価していただく項目を示した。12月に保護者・児童アンケートを行い、結果をまとめ、学校教育報告会で示した。学校運営協議会の評価・承認のもと、次年度に活かしていく。児童・保護者それぞれにわかりやすいアンケートをさらに目指していきたい。また、アンケートを集計しやすいように工夫していきたい。 ③新しい職員が多く、各ワーキングが活動を引き継げるように取り組んできた。ワーキング制は取り入れた当初は、職員全員が主体的に各ワーキングにおける目標・課題に対して創造的に解決していくことをねらい、進められてきた。数年経ち、目標・課題に対して安定した活動ができ、仕事が細分化されてきた。それぞれのワーキングの活動を再考していく必要が出てきた。	①学年便り、懇談会等で目標を知らせるとともに、機会があるごとに目標に向けて活動する子どもたちの様子をお知らせするようにしていく。 ②学校評価の流れについては今年度と同様に来年度も進めていくが、アンケート項目やその内容、集計を考えた用紙作りについては、運営委員会を中心に改善していく。 ③各ワーキングの活動をまとめ、各ワーキングに適切なものか確認していく。来年度は長期的視野のもと、組織の在り方を検討していく。
9	「施設整備の充実」	①新校舎における学校生活を送る上で必要な環境整備に全職員で取り組む。 ②学習しやすい学校施設の環境づくりに努める。 ③児童増加に伴う校舎改築が進む中、児童の安全を確保する環境を整える。	①新校舎での不具合を改善できるよう、調査をして、修繕に取り組んでいる。新校舎設備に慣れず、使えきれていない部分もある。設備についての取り扱いを確認していく必要がある。 ②プレハブ校舎からの短期間の引っ越しだったため、教材室など整理できていない部屋があったが、夏季休業中に整理するようにした。また、備品整理も行った。 ③校庭工事が進み中、業者と連絡を密に取りながら、児童の安全が確保できるように対処してきた。	①これまでと同様に修繕に取り組んでいくとともに、校舎落成・70周年記念事業と関連して、設備を整えていく。また、設備取り扱いの説明書の所在をはっきりし、有効に利用できるようにしていく。 ②新校舎をこれまで以上に有効利用していくため、職員が普通教室・特別教室の使い方を紹介する活動を進めていく。 ③校庭の使い方を決めていくとともに、校庭ができたことによって変わる校舎の使い方の変化もあるはずなので、職員・児童共に共通理解していく。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
<p>○上丸子文化祭をはじめとする様々な学習・行事での地域とのつながりは素晴らしい。今後も子どもたちの豊かな成長のため、継続してほしい。地域人材の高齢化による人材確保の問題が出ているが、地域住民として人材確保に協力していきたい。</p> <p>○今年度から新校舎での学校生活が始まった。校庭がない中、体育学習や休み時間の遊びの体制など、よく工夫をして取り組んでいる様子が分かった。来年度は校庭ができる中、これまでと同様に校舎内での過ごし方について考えるとともに、校庭の使い方を工夫して考えていってほしい。</p> <p>○来年度は、校舎落成・70周年記念式典がある。学校運営協議会として、キラキラバザーの持ち方をよく考えていきたい。人的負担を軽減していくことを考慮して、行事とのかねあい、時期、規模などを協議会委員と学校職員とがより協力しながら進めていく必要がある。また、学校運営協議会の組織として進めている寺子屋事業には協議会の委員がこれまで以上に積極的に参加していきたい。</p>	<p>○今年度も、学校運営協議会の委員の皆様をはじめ、地域の方々との協力により、体験活動など、子どもたちは豊かな学習を行うことができた。また、保護者を中心とした学習支援ティーチャーズの協力により、子どもたちの学習理解・スキルの習熟は高まった。子どもたちの安全で豊かな成長のため、学校・保護者・地域が協力する体制を今後も継続していきたい。地域人材確保は今後の課題となっている。学校運営協議会の協力を受けながら、人材開拓、学習活動の工夫・改善を、さらに進めていく。</p> <p>○校庭がない中、新校舎の場を活用しながら、子どもたちの落ち着いた生活と体力向上のために工夫して運用してきた。来年度は校庭が完成する中で、校庭の使い方のきまりを定めるとともに、これまでと同様に子どもたちの体力を高める活動や心身の発達をめざす取り組みを考えていく。</p> <p>○校舎落成・70周年記念式典を控えている中、PTA・学校運営協議会・地域の方々と相談・協力しながら実行委員会を中心に様々な事業を進めていきたい。</p>